

日本とアメリカでの外国語の必要性に対する認識度の比較

ステファニー・リッツ

カリフォルニア州立大学モンレーベイ校

要旨

日々グローバル化している今日、外国語を話す能力が重要視されその需要も見直されてきている。例えば、日本では国のグローバル化政策により幼稚園から英語で英語を教えるように奨励されているが、その体制はまだ整っていない。アメリカではコミュニケーションを目的とした教育がすでに導入されている。また、外国語能力を上げるためには学習者の「ゴール設定」(Locke & Latham, 2006)が大切であるとされている。日本とアメリカでは外国語を学んでいる大学生は、どのように外国語の必要性を観ているのか。そしてどのような外国語の必要性を満たす具体的な目標を持っているのかに注目して調査した。このアンケート調査にはアメリカ人20名、日本人25名の大学生が参加した。その結果、両国の学生は仕事、教育、政治面で外国語の能力が大切であり、国のニーズに応えたいと思っていることがわかった。さらに、外国語学習者がどのようなゴールにむけて外国語を勉強するかが能力の向上の動機につながるということがわかった。両国の学生は自分達が培った外国語の知識やスキルを将来ぜひ社会で役立てたいと思っていることもわかった。

はじめに

日々グローバル化している今日、外国語を話す能力が重要視されその需要も見直されてきている。日本では国のグローバル化政策により英語教育等に力を入れている。アメリカではすでにコミュニケーションを目的とした教育外国語のスタンダードがある。どのようにコミュニケーション能力を高めるか等多くの調査研究がすでにある。外国語を学んでいる学生は国での外国語の必要性をどのように考えているのか。またどのような外国語の必要性を満たす目標や動機を持っているのか等に関してここで追求する。

1. 研究の重要性

私が日本に留学していた際、英語を勉強している学生に会った時、彼らは外国語をどこで、何のために使たいと思っているかをさぐりたいと思った。日本とアメリカで

の外国語の必要性はどのように違うのか、また学生はどのような目標を持ち、満たしていきたいと思っているのかをもっと深く知りたい。

2. 研究質問

1. 外国語を学んでいる日本とアメリカの大学生は、自分の国の外国語の必要性をどのように考えているのか。
2. これらの学生は、どのような外国語の必要性を満たす具体的な目標を持っているのか。

3. 研究背景

3.1. 日本とアメリカの外国語教育

3.1.1. 日本での英語教育について

日本では「主要科目」として外国語は主に英語を教える(English Education Reform, n. d.)。現在は新しい法律で、英語教育は小学校の5年生から高校の3年生まで8年間行なわれることになった。英語教育は、政府のグローバル化の大事な事項である。また外国語は大学に入学するためにも重要である。「大学入試センター試験」では外国語が大学に入学するための主要教科である(独立, n. d.)。この「センター試験」での主要科目には、国語、地理、歴史、公民、数学、科学と、外国語があり、外国語としてはほとんどが英語を選ぶが、選択として英語教育の外に独語、仏語、中国語、韓国語もある。

3.1.2. アメリカでの外国語教育について(スペイン語、仏語、独語)

アメリカの連邦政府では、外国語が「主要科目」に入っている(Title IX, n. d.)が、カリフォルニア州では入っていない(States, 2008)。卒業のために1年間外国語か美術を選択することになっている。アメリカの中で教えられている外国語のトップ3はスペイン語、仏語、独語である(Furman, Goldberg & Lusin, 2010)。しかしカリフォルニア州立大学やカリフォルニア大学等のカリフォルニア州立の大学に入るためには、高校までの最低二年間の外国語が必要になっている(HIGH SCHOOL, n. d.)。

3.2. 「外国語の必要性」とは何か

外国語はどのように国では必要なのか。国では効果的にコミュニケーションできる人材が必要である。例えば、国内では移民や継承語話者のため、海外で働いたり、政治等の面でも外国語が必要になる。ただその、外国語の必要性を計るための共通なスケールやテストはない(Maurer, 2010)。

3.3. 教育理論：「ゴール設定」

ロックとレイサムによると(2006)一番大事なのは、より具体的でチャレンジを促す目標を設定することが成功と満足度を高めるとしている。動機には内因性と外因的の二種類がある。内因性は主にスキルの習得を目指すことで、外因的の動機は主にスキルの成果を目指すことである。例えば、内因性は絵を描くようなことで、外因的の動機はお金を受け取るために働くようなことである。その二つは繋がりがあり、また重なり合う(Schunk & Zimmerman, 2008)。例えば、庭作りを楽しみながら、農産物を収穫するという二つの動機が重なりあっているようなものである。

4. 研究

4.1. 調査の対象

この調査アンケートは45人の大学生に参加してもらった。内訳は日本人25名、アメリカ人20名である。

4.2. 調査方法

アンケート調査用紙を日本語と英語で作成し、オンラインでデータを集めた。

5. 結果

5.1. 研究質問1：外国語を学んでいる日本とアメリカの大学生は、自分の国の外国語の必要性をどのように考えているのか。

この研究質問に対し、回答者に自分の社会の分野で、外国語の必要性をどのように考えているのかと評価してもらった。まず、「非常に必要」から「全く必要ではない」の5点スケールで仕事や経済、一般社会、宗教な背景、学校や教育、政治と、地域社会の分野で外国語話者がどの程度必要と思うのかを評価した。

図1：外国語が必要なトップ3

アメリカ 「非常に」と「かなり」	日本 「非常に」と「かなり」
政治 (93.8%)	政治・教育 (85.7%)
教育・仕事 (85.7%)	仕事 (81.0%)

図1からわかるように、外国語は必要とされるトップ3では、80%以上のアメリカ人と日本人の参加者は仕事、教育、政治に「非常に」と「かなり」重要な外国語の必要性があると思っていることがわかった。

図2：外国語の必要性を満たす項目

	アメリカ 「いつも」と「よく」と 「時々」	日本 「いつも」と「よく」と 「時々」
仕事	72.2%	85.7%
教育	44.4%	47.6%
政治	44.4%	76.2%

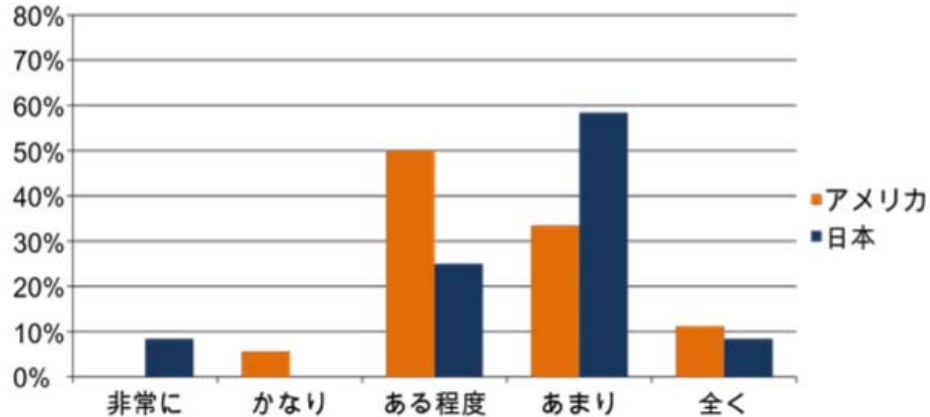
次に同じ社会の分野で、また仕事、教育と、政治の項目について、「外国語話者の必要性を満たしていると思うのか」を評価してもらった。図2からもわかるように社会において、80%以上のアメリカ人と日本人は仕事および政治のニーズを満たしているが、まだ外国語のニーズがあるとしている。また、50%未満の参加者は外国語の教育においてのニーズが満たされているにすぎないと思っていることがわかった（図2参照）。

図3：取り組むことが必要のトップ3

アメリカ 「非常に」と「かなり」	日本 「非常に」と「かなり」
教育・政治 (93.8%)	教育 (90.5%)
仕事 (93.8%)	政治 (85.7%)
---	仕事 (81.0%)

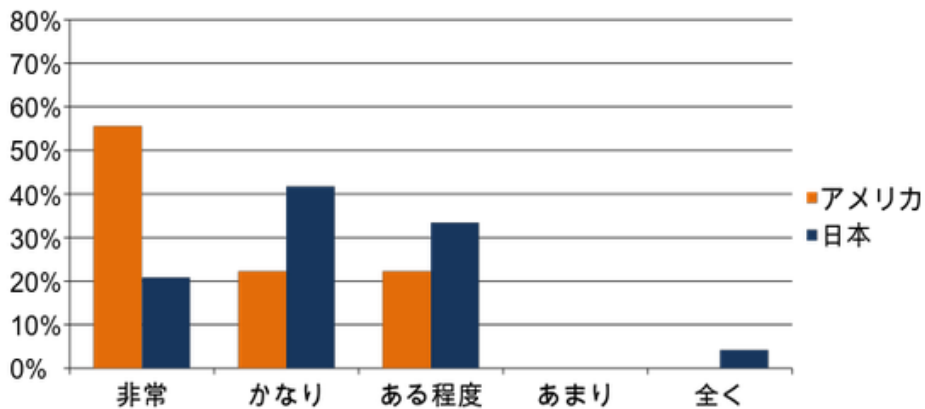
図3からもわかるように、回答者に外国語の必要性を満たすために、どの程度取り組むことが必要だと思うかを評価してもらった。その結果、アメリカ、日本でもトップ3に上がったのは教育、政治と、仕事である。

図4：国は外国語の必要性を満たしているか



全体的にみると、自分の国は外国語の必要性を満たしていると思うかという問いにはアメリカ人は国が「ある程度」外国語のニーズを満たしているという意見が50%を占めた（図4参照）。その一方、日本では、国がニーズを「あまり」満たしていないと答えた日本人は58%である。

図5：外国語の必要性に貢献することが重要か



次にどの程度、回答者の国の外国語の必要性に貢献することがあなたにとって重要かという問いに対しては両国の外国語学習者は自分の国のニーズに貢献することが重要だとし、56%のアメリカ人が「非常に重要」、42%の日本人が「かなり重要」と回答した（図5参照）。

5.2. 研究質問1のまとめ

両国で外国語のニーズがあるのは仕事、教育、政治面である。アメリカ人と日本人は仕事面では外国語の必要性をみたしてはいると言っているが、もっと必要であると思っているようだ。また、日本では早くから外国語教育を提供しているが期間より内容に目を向けなければいけないとしている。そして両国の外国語を勉強している学生は国のニーズを満たすためには是非貢献したいと思っていることがわかった。

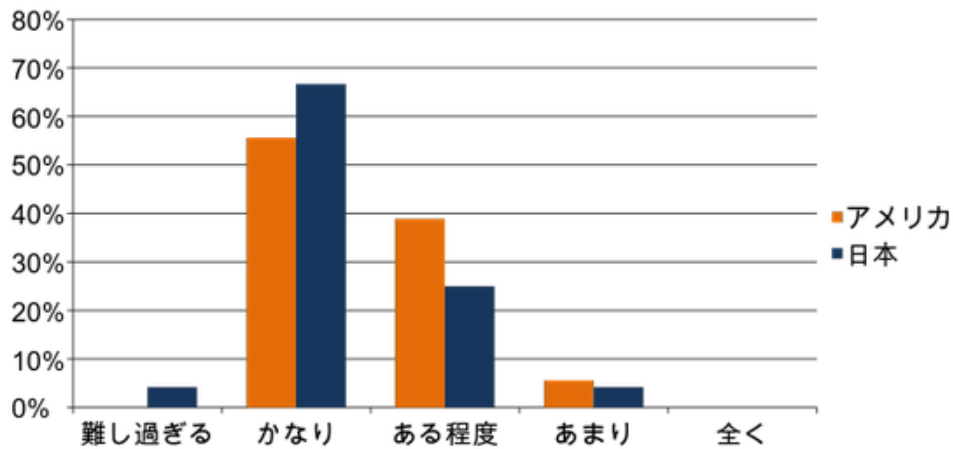
5.3. 研究質問2：これらの学生は、どのような外国語の必要性を満たす具体的な目標を持っているのか。

図6：外国語を学んでいる目標

	アメリカ	日本
1	外国語を聞いて理解する	雇用機会の増加
2	雇用機会の増加	海外で働く
3	翻訳・通訳をする	母語話者のように話す や 外国語を聞いて理解する

この研究質問に対し、図6からもわかるように、外国語を学んでいる目標で最もふさわしいものとしてあげられたトップ3は両国とも似ていることがわかった。アメリカは外国語を聞いて理解すること、仕事、そして翻訳通訳があげられた。日本人も仕事、海外での仕事、そして母語話者のように上手に話すことである。

図7： むずかしい外国語の目標



達成したいと思っている外国語能力について目標を達成するのはどのくらいむずかしいと思っているかに関して、両国の大部分の学生が自分の目標を達成するにはむずかしいと思っていることがわかった（図7参照）。

次に、学生たちの学ぶ動機を調査した。回答者は次の動機のタイプに関して様々な状況に関連した一連の質問に答えた。内因性の動機としては、習得目標、達成の必要性があり、外因的のような質問は権威の期待、仲間の受け入れ、権力動機と、失敗を恐れを挙げた。肯定的な答えは具体的な動機を表し、否定的な答えは具体的な動機を表さないというものである。

図 8：学ぶ動機

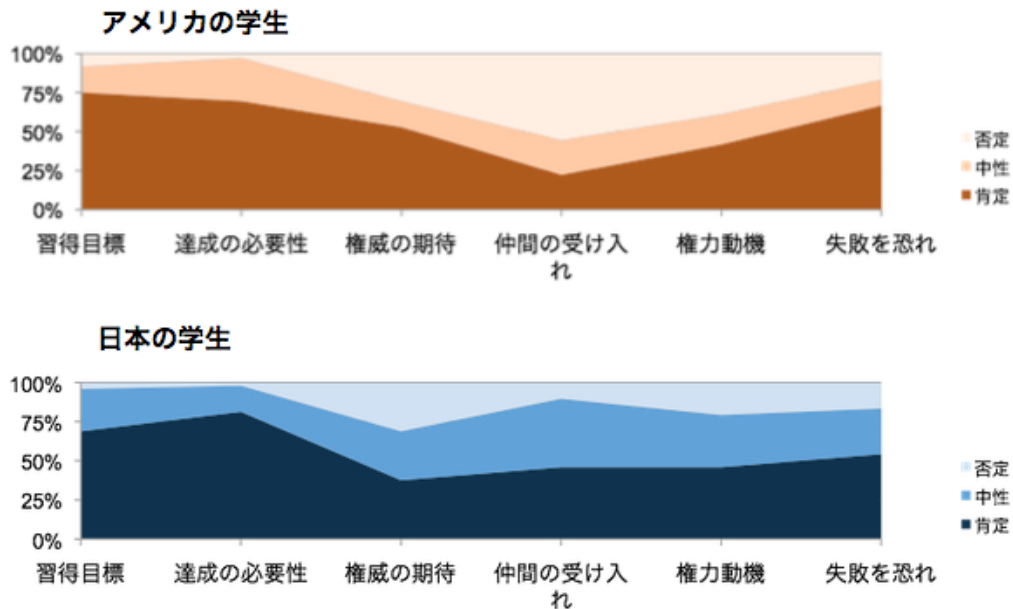
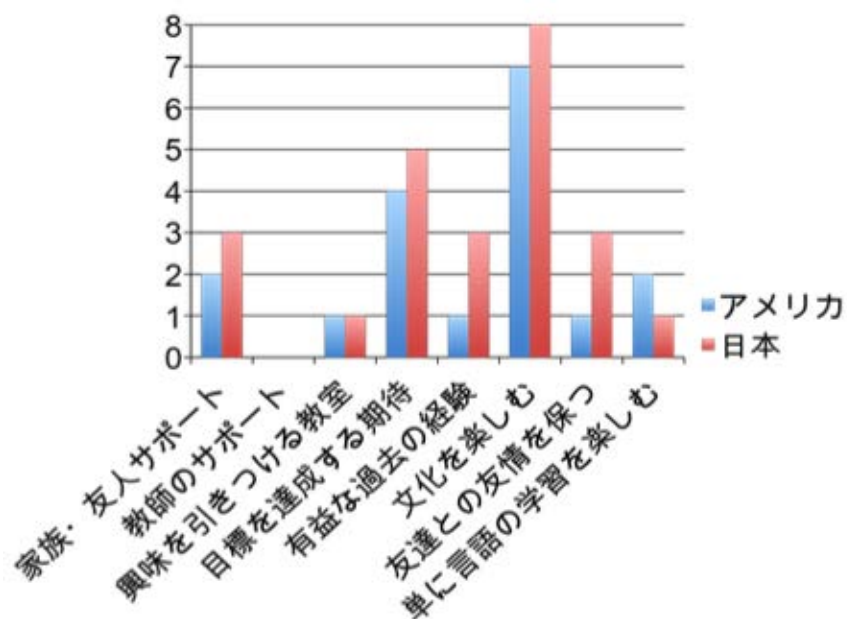


図 8 からわかるように、学生たちの学ぶ動機を表わしている。暗い色は肯定的な答え、動機の傾向を示す。アメリカ人の最高動機と最低動機は達成の必要性和仲間の受け入れである。一方、日本人の最高動機も達成の必要性であるが、最低動機は権威の期待である。このグラフの結果は、両国の学生は高い内因性動機付けを達成することを示している。アメリカの学生は仲間の受け入れに対するニーズにあまり影響されない。一方、日本の学生は権威の期待を満たすことに対するニーズにあまり影響されなかった。全体的に、日本の学生のほうがより中立的な回答を選んだ。

図9：外国語学習の主要な動機



次に外国語学習の主な動機としては、両国の学生の主要な動機は同じようである。日本でもアメリカでも文化を楽しむことと目標を達成する期待が動機に影響する（図9参照）。

5.4. 研究質問2のまとめ

学生の目標は異なるが、雇用機会や外国語を理解するのは一般的に共通していた。それと、それらの目標を達成することはむずかしいと思っていることがわかった。また、両国の学生は内因性動機の目標が高いである。つまり、文化を楽しむことである。そしてそれは外国語能力を高めるのに貢献することもわかった。

6. 結論

この研究を通して、外国語学習者は、両国とも仕事、教育、政治に外国語話者がもっと必要だと思っていることがわかった。また、彼らは是非、国の外国語の必要性に貢献したい願望が高いこともわかった。将来、学んだ外国語の能力を国に貢献したいという思いは国の外国語のニーズに肯定的な影響を与えるであろう。

7. 研究の限界点と将来の研究課題

最後に、この研究は外国語を学んでいる大学生を対象にした研究であるため、全国の意見は反映していない。将来の研究課題として外国語を学んでいない学生や一般大衆は外国語の必要性をどのように考えているのかについて研究をしたいと思う。

参考文献

- English Education Reform Plan corresponding to Globalization. (n.d.). Retrieved February 11, 2015, from http://www.mext.go.jp/english/topics/___icsFiles/afieldfile/2014/01/23/1343591_1.pdf
- Furman, N., Goldberg, D., & Lusin, N. (2010, December 1). Enrollments in Languages Other Than English in United States Institutions of Higher Education, Fall 2009. Retrieved March 12, 2015, from http://www.mla.org/pdf/2009_enrollment_survey.pdf
- HIGH SCHOOL SUBJECT REQUIREMENTS. (n.d.). Retrieved April 10, 2015, from https://secure.csumentor.edu/planning/high_school/subjects.asp
- Locke, E. , & Latham, G. (2006). New directions in goal-setting theory. *Current Directions in Psychological Science*, 15(5), 265-268.
- Maurer, C. D. (2010). FOREIGN LANGUAGE CAPABILITIES: Departments of Homeland Security, Defense, and State Could Better Assess Their Foreign Language Needs and Capabilities and Address Shortfalls. Retrieved February 2, 2015, from <http://www.gao.gov/products/GAO-10-715T>
- Schunk, D., & Zimmerman, B. (2008). *Motivation and Self-Regulated Learning: Theory, Research, and Applications*. New York: Routledge Taylor & Francis Group.
- States with or Considering High School Foreign Language Graduation Requirements Revised March 2010. (2008, February 1). Retrieved February 11, 2015, from <http://www.ncssfl.org/docs/States with Foreign Language Graduation Requirements - Revised 2010.pdf>
- The National Standards Collaborative Board. (2015). World-Readiness Standards for Learning Languages: Fourth Edition (W-RSLL). Alexandria, VA: Author. Retrieved from: <http://www.actfl.org/publications/all/world-readiness-standards-learning-languages>. - See more at: <http://www.actfl.org/publications/all/world-readiness-standards-learning-languages#sthash.5i3HqebN.dpuf>

Title IX - General Provisions. (n.d.). Retrieved April 10, 2015, from
<http://www2.ed.gov/policy/elsec/leg/esea02/pg107.html>

独立行政法人大学入試センター. (n.d.). Retrieved April 13, 2015, from
<http://www.dnc.ac.jp/>

平成23年度高等学校等における国際交流等の状況について. (2011, January 1).
Retrieved April 8, 2015, from
http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/__icsFiles/afielldfile/2013/10/09/1323948_02_1.pdf